

華やぐ 着物

大正、昭和の文様表現
Kimono in the Taisyo and Showa Era

2018. 12.20 thu.

↓
2019. 2.16 sat.

- 開館時間 10時～16時30分（1月25日、2月8日は19時まで）
入館は閉館の30分前まで
- 休館日 日曜日、祝日、振替休日
◎年末年始（12月29日～1月6日）休館
- 入館料 一般500円、大高生300円、小中生200円
◎20名以上の団体は100円引
◎障がい者とその付添者1名は無料
- ギャラリー
トーク 1月19日（土）、2月2日（土）13時30分～
◎12時30分より受け付け順30名



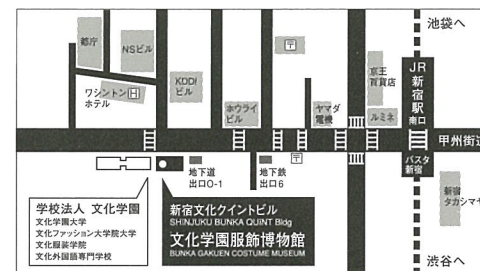
華やぐ 着物

大正、昭和の文様表現
Kimono in the Taisyo and Showa Era

大正時代～昭和初期にかけては、資本主義の発達に伴い社会構造が大きく変化するとともに、西洋文化の流入や新技術の導入により、人々の生活は豊かで近代的なものへと様変わりしました。それまでは、華やかな文様の着物は高価で一般には手の届かないものでしたが、大正時代以降、化学染料の普及と染色技術の向上により華やかな着物を大量に生産できるようになりました。また、百貨店の顧客層や女性雑誌の読者層が広がり、多くの女性がおしゃれを楽しむようになりました。

この頃の着物の文様は、日本の伝統的なモチーフを洋画風に表現したり、洋花を大胆かつ鮮やかに表したりと、モダンな雰囲気を感じさせます。また、大正時代末期から昭和時代初期にかけて絶大な人気を誇った銘仙も、大胆な文様と斬新な色遣いで人々を魅了しました。本展では、大正時代から昭和初期の女性たちを華やかに彩った着物の数々をご紹介します。

- ① 婚礼着用物 昭和8年
- ② 帯（部分） 大正時代～昭和初期
- ③ 銘仙の着物 昭和時代初期
- ④ 襦袢（部分） 大正時代～昭和初期
- ⑤ 帯（部分） 大正時代～昭和初期
- ⑥ 銘仙の羽織 昭和10～15年頃
- ⑦ 男児着物 大正時代
- ⑧ 伊勢崎銘仙絵葉書 昭和3年



文化学園服飾博物館
BUNKA GAKUEN COSTUME MUSEUM

〒151-8529 東京都渋谷区代々木3-22-7 新宿文化クイントビル
TEL.03-3299-2387 JR・京王線・小田急線新宿駅（南口）より徒歩7分
都営地下鉄新宿線 / 大江戸線 / 京王新線新宿駅（新都心口）より徒歩4分 地下道出入口O-1に隣接

学校法人文化学園
文化学園大学 / 文化ファッション大学院大学 / 文化服装学院
文化外国語専門学校 / 文化出版局 / 文化学園服飾博物館

